

## 児童生徒 1 人 1 台端末導入を機に Google for Education を採用 市の特色も活かして“個”に応じた学習指導を目指す

長崎県佐世保市は、離島も含む広い市域と風光明媚な自然、そして米軍基地の存在が大きな特徴です。人口規模に対して学校数が多く、外国人と日常的に触れ合える環境であるため国際色も豊かな地域です。同市では教育の ICT 化を先駆的に進めてきましたが、このほど児童生徒 1 人 1 台の端末導入に際して Google for Education を採用しました。その経緯と導入にまつわるエピソード、さらには今後の変化への期待について、同市教育委員会のみなさんに話を聞きました。



※佐世保観光コンベンション協会提供



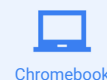
佐世保市教育委員会

〒857-8585

長崎県佐世保市八幡町 1 番 10 号

<https://www.city.sasebo.lg.jp/kyoiku/kyoiku/inkai/>

長崎県第 2 の約 25 万の人口を有する佐世保市は、戦前は海軍鎮守府が設置され、戦後も米海軍基地や自衛隊基地が置かれる平和産業港湾都市として知られる。その一方で、港湾関連産業や観光業も大きく発展している街だ。島しょ部も含め広い市域の 70 小中学校を統括する佐世保市教育委員会は、2020 年 11 月に「スマート・スクール・SASEBO 推進室」を設置し、教育における ICT 活用を加速させている。



Chromebook

約 20,511 台

# 01

## GIGA スクール構想に合わせて 新たに Chromebook を導入

日本本土の最西端地域に位置する、佐世保市。県内では長崎市に次ぐ約 25 万の人口と、九州本土に加えて離島も抱える広い市域が特徴で、米海軍基地や自衛隊基地を擁する地政学上の要衝でもあります。その環境から、基地周辺ではほとんどの学級に外国籍の児童生徒が在籍している点、自衛隊関係者の転勤で子どもの転出入が多い点も特色となっています。市中心部の学校では、基地内のアメリカン スクールとの交流が活発に行われています。ただ、市域の広さから市立小中学校は 70 校と多く、基地から離れた周辺部・離島部では状況が大きく異なります。

そんな佐世保市では、以前から各学校のパソコン室に各 40 台、及び各学級 1 台のノートパソコンを整備し、授業に活用していました。2016 年度からはノートパソコンが更新時期を迎えるということで、Windows タブレット端末へのリプレイスメントを順次進めているところでした。各校では音楽室などの特別教室も含め校内ネットワークの整備が終わり、タブレット端末をパソコン室から持ち出して各教室で利用できる無線 LAN 環境も整っています。

佐世保市教育委員会  
学校教育部



総合教育センター課 兼 教育センター 兼 スマート・スクール・SASEBO 推進室 主査  
尾崎 慶次郎 氏



総合教育センター課 兼 教育センター 兼 スマート・スクール・SASEBO 推進室 副主幹  
山口 貴弘 氏

「端末のリプレイスメントに合わせて各校の全教室に大型モニターを、各校に2台ずつ電子黒板を配備する計画を進めていますし、先生方が使う端末も校内ネットワークでつながっているため、授業でモニターに教材や資料を映すといったことは当たり前に行われていました。ですので、ICT導入は比較的進んでいたと思います」と話すのは、佐世保市教育委員会 学校教育部総合教育センター課 主査で、市の教育センターも兼務する尾崎慶次郎氏です。

ノートパソコンからタブレット端末へのリプレイスメントは2021年度までに完了する予定で、2019年度時点では全70校中29校の約1,700台まで進んでいました。そのタイミングで、2019年末に文部科学省からGIGAスクール構想が発表されたのです。

同部総合教育センター課 副主幹で教育センターも兼務する山口貴弘氏は、GIGAスクール構想により端末配備の方針がガラリと変わった経緯を次のように話します。

「GIGAスクール構想の発表後、年が明けて2020年1月に行われた説明会に、市の教育長が参加しました。それをきっかけにWindowsタブレットへの置き換えをやめ、1人1台端末整備の検討に入りました」（山口氏）

この段階での候補として、Google Chrome OS が挙げられました。それは2万人規模の端末管理が大変な作業になると想定され、Google Chrome OS は、それができるソリューションであると考えたからです。

「Chromebook を候補にいったポイントとして、端末の管理・性能面に加えて学習支援ソフトの内容がポイントになりました。検討の結果、Chromebook は起動の速さと動作の軽さ、操作性の高さを評価できるうえ、OS の設計自体がクラウドに特化しており不具合が少ないこと、Google のモバイル デバイス管理ソリューションが使いやすいこと、コスト面で Google Workspace for Education (以下、Google Workspace) に分があることも評価。最終的に、Chromebook と Google Workspace の組み合わせが最適な選択ではないかと考えました」と山口氏はいいます。

佐世保市での検討の後、長崎県全体で端末の共同調達を行う動きが始まり、県としても最終的に Chromebook を選定したことから、2月に Chromebook 採用が正式決定されました。ちなみに Windows タブレット時代のアカウント管理は業者に委託していたため、一定の管理コストがかかっていましたが、1人1台端末として Windows を継続採用した場合、2万人を超えるアカウントを管理するとなればコストが大幅に増えてしまうことが懸念されます。その点も Google for Education を選ぶ決め手の一つになったと、予算関連作業で活躍した同部総合教育センター課 係長の松本貴史氏は振り返ります。

松本氏は、さまざまな部門間の予算調整で走り回りました。

「GIGA スクール構想自体が何十年に一度という教育現場の大変革ですから、対応する既存の予算など当然ありません。私は予算



をまとめる事務方として確かに苦心はしたのですが、佐世保市では2017年度から市の方針として学校教育のICT支援に力を入れていましたし、今回の取り組みでも市長や教育長の強い後押しがありました。トップの指導力があったからこそ、予算面もうまくまとめられたと思っています」(松本氏)

一方、GIGAスクール構想前に校内ネットワーク整備が進んでいたことも大きなサポートになったと山口氏はいいます。ただ、今回の1人1台端末導入に際し、インターネット接続にはLTE回線を採用しました。その背景については、こう解説してくれました。

「インターネット接続手段として、各校で新たにネットワークを整備する方法と、LTEを使う方法の2つを検討しました。その意思決定を行う時期が3月から4月、ちょうどコロナ禍の影響による臨時休校への対応を考えなければならない時期だったのです。市としては、コロナ対応で各家庭に負担をかけることなく、すべての子

どもに平等な教育を行き渡らせたいとの判断から、LTEの選択に至りました」(山口氏)

佐世保市教育委員会  
学校教育部



総合教育センター課 兼  
スマート・スクール・  
SASEBO推進室 係長  
松本 貴史氏

## 02

### 2021年からの本格スタートの先に 地域を超えてつながる将来展望を描く

佐世保市では2020年11月、GIGAスクール構想を受けて教育のICT化関連施策を加速させるべく「スマート・スクール・SASEBO推進室」を新設しました。児童生徒1人1台端末の運用とGoogle Workspaceの教育における活用推進もこの組織が牽引していきます。

Chromebookは一部学校で先行配布することはせず、2021年1月から順次配布し、運用を始めていく計画です。「なにしろ先行事例がないので、自分たちですべて考え、実施していかなければなりません。これからもさまざまな選択肢の前に想像力を働かせ、方針を決定し、それを丁寧に説明しながら手探りで進めていきます」と、松本氏は当面の進め方を説明します。

教員の研修はすでに始めています。尾崎氏は「急激な変化に先生方がついてこられるのか、本当に使いこなせるようになるのか、心配は当然あります。そこでGoogleに協力してもらい、8月の夏季休業期間を利用して70校から1名ずつの先生に、Google Workspaceの使い方など基本的な研修を実施しました。現在は私たちが作成した動画を先生方に見てもらい、理解を深めているところです。また12月から2月にかけて、各校の推進役となる先生を対象に研修を行っていきます」と話します。

教育での具体的活用方法については、同部学校教育課 主査でICTを利用した授業指導を担当している野元健介氏が次のように

話します。

「Google Classroomを使って学習課題の配布・回収・評価を行うことで、効率的かつ継続的な指導につなげることができます。そのうえで、児童生徒の個に応じた学習に利用していきたいですね。



不登校などにより教室で授業を受けられない子どもへの支援も含め、個別に最適化された学習指導が可能になると考えています。また、LTE を導入したことで、教室以外で行う体育、校外学習、修学旅行などはもちろん、家庭での学習、生活状況のチェック、あるいは部活動や委員会活動にも Google for Education を活用できると考えています」(野元氏)

教育委員会では、データ共有や共同編集が可能になることで、教職員の授業準備の効率化と業務改善、超過勤務削減など働き方改革の実現にも効果を期待しています。

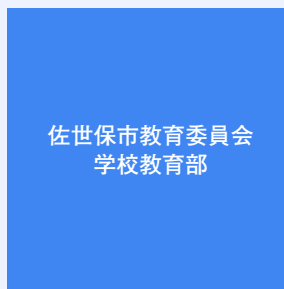
さらに尾崎氏は、「現在はまだ本格スタートを切る前の段階ですから、あくまでも将来展望にすぎないのですが」と前置きしたうえで、こう話します。

「今後 1 人 1 台端末が定着することで、場所と時間の制約が取り払われます。そうすれば、市の中心部の学校が従来実施しているアメリカン スクールの英語のネイティブ スピーカーとの交流が、離島などのエリアにある学校でも可能になるのではないのでしょうか。そしてゆくゆくは佐世保市内、長崎県内だけでなく、日本全国の学校

とつながっていくこともできるのではと期待しています」(尾崎氏)

最後に野元氏は、Google への要望も交えて次のように語ってくれました。

「今後、子どもたちと先生方が実際に活用していく中で、いろいろな問題が出てくると思います。それについては Google とも相談し、一緒になってより良い方向性を探っていきたいですね」(野元氏)



学校教育課 兼 スマート・  
スクール・SASEBO 推進室 主査  
野元 健介 氏

## Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える教育テクノロジーソリューションです。

### Google for Education の特徴

- 簡単操作
- 手ごろな価格
- 高い汎用性
- 高い効果

1

## chromebook

教育向けに設計され、授業向けに開発された軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

2

## Google Classroom

教師と児童生徒向けに構築された学習プラットフォーム

3

## Google Workspace for Education

時間や場所を問わず学校全体で共同利用できるクラウド型教育プラットフォーム

4

## Chrome Education Upgrade

1 つの端末から同じドメインのすべての Chromebook を設定  
シンプルなクラウド型管理コンソール

